

水害 に強い すまいる になるために

集中豪雨や台風等による浸水被害が近年多く発生しています。
水害を減らすためには、日ごろからの備えが大切です。



今あるすまいでできること

家の周囲の安全対策



建物の以下の部分に不具合はありませんか？
事前に点検し、必要に応じて修理をしましょう。

- 外壁（亀裂等）
- 窓ガラス（ひび割れ）
- 屋根（ひびや割れ等）
- 雨戸（がたつき）
- 飛散の恐れがあるもの（物干し等）
- 雨どい（破損）

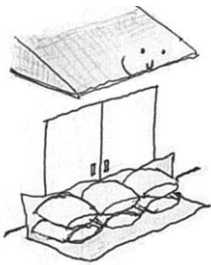
排水路の確保



排水溝や雨どい等は、定期的に点検・清掃
しましょう。

落葉やごみ等で排水路が塞がれていると、
敷地内に水が溜まったりする恐れがあります。

土のうの設置

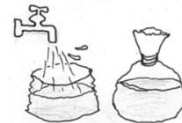


土のうの設置は、敷地内への浸水や建物内へ
の浸水を軽減することができます。

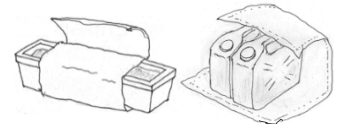
建物の出入口等、止水したい場所の大きさを
確認し、必要な土のうの個数を把握しておきま
しょう。

土のうの代わりに…

ごみ袋で
簡易水のうを作る



プランター・ポリタンクと
レジャーシートによる止水



水のうと板による
簡易止水板



水のうによる
下水の逆流防止



土のうがない場合は、ごみ袋やプランター、
ポリタンク等の身近なものを使って、家の浸
水を防ぐこともできます。



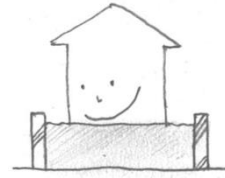
これから新築をお考えの方へ

床レベルを高くする



基礎の高さを高くすることにより、床レベルを高くしましょう。

地盤を高くする



敷地に盛土を行い、地盤を高くしましょう。必要に応じて鉄筋コンクリート等の擁壁を設けましょう。

防水壁で家を囲む

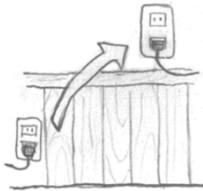


建物の周囲を防水性のある塀等で囲むことにより、敷地外からの浸水を防ぎましょう。

建物への入り口等
りっこう
は陸間（防水性のある門扉）で防ぎましょう。

木造住宅等、自重の軽い建物等では、浮力で浮き上がらないように、基礎との接合を強化することも大切です。

設備機器を守る



コンセントを高い位置に設置しましょう。エアコンの室外機や給湯器等をなるべく上部に設置しましょう。

外壁を耐水化する



外壁に防水性のある建材を使用することにより、建物への浸水被害を低減させましょう。

今住んでいる場所、これから住む場所の情報を収集しておきましょう！

●国土交通省ハザードマップポータルサイト

浸水想定区域図や洪水ハザードマップ等の防災情報を確認できます。

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

●大牟田市防災ハザードマップ

土砂災害の警戒区域や堂面川等の浸水想定区域、津波の浸水想定区域等を1冊にまとめています。ホームページより、閲覧することができます。

<https://www.city.omuta.lg.jp/>

